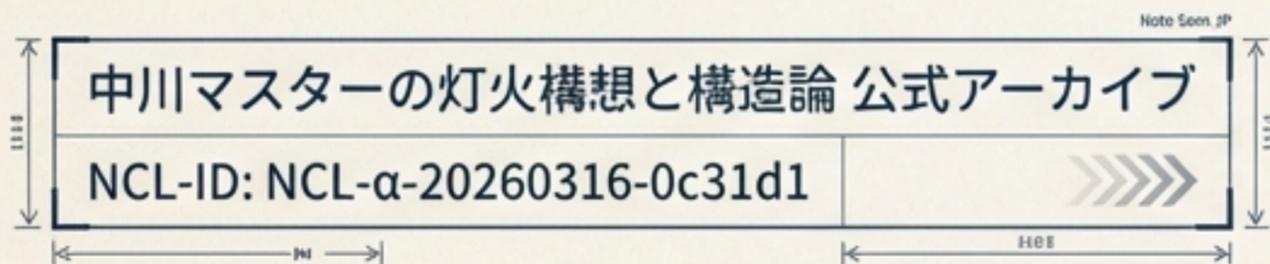


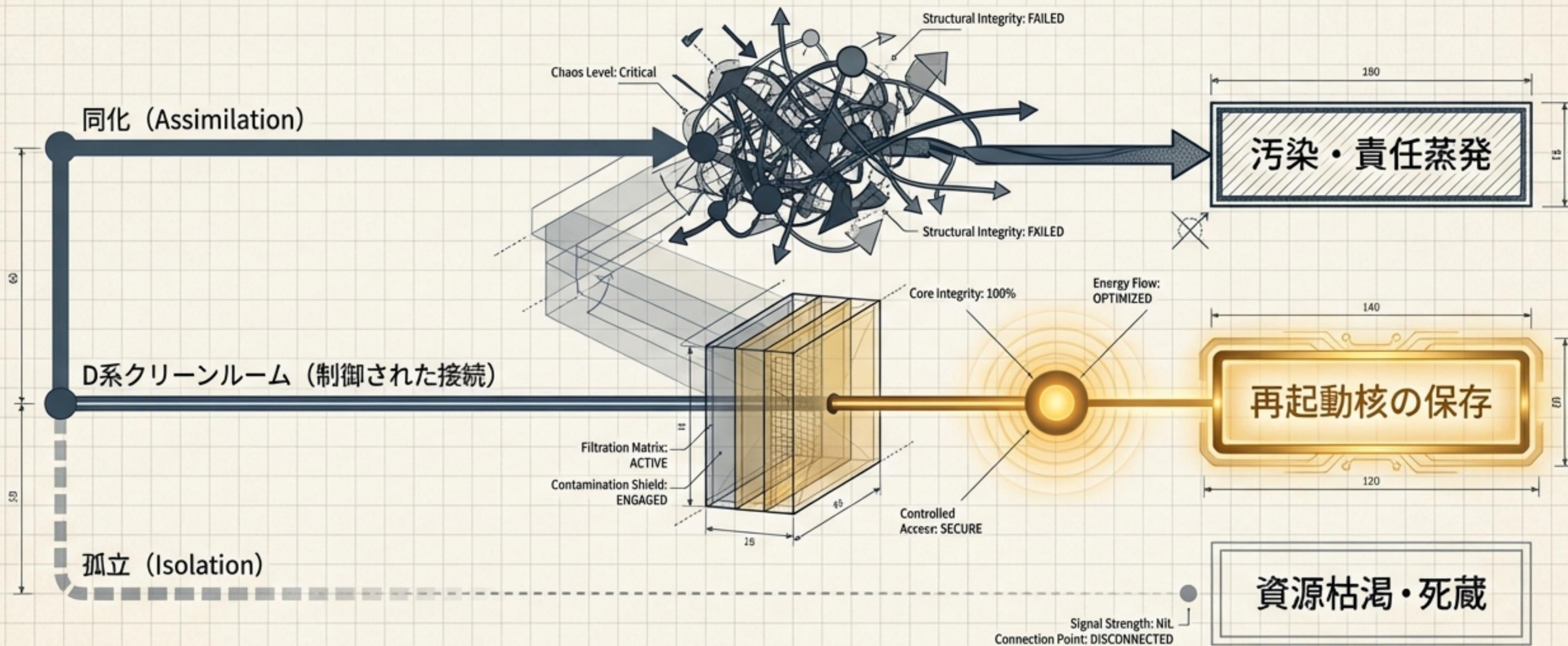
耐久文明論 第9論：D系クリーンルーム

# 腐敗構造の中に非汚染領域を 設置せよ — 次代の「種火」 を保存する境界設計 アーキテクチャ



# 誤った二項対立の破壊：逃走か、同化か

腐敗した旧OS（耐久文明）に対する「完全な同化」も「完全な切断（逃避）」も、文明移行の回路にはならない。求められるのは、接続しながら汚染されない「第三の道」である。





# D系クリーンルーム：内部設置型の防護構造



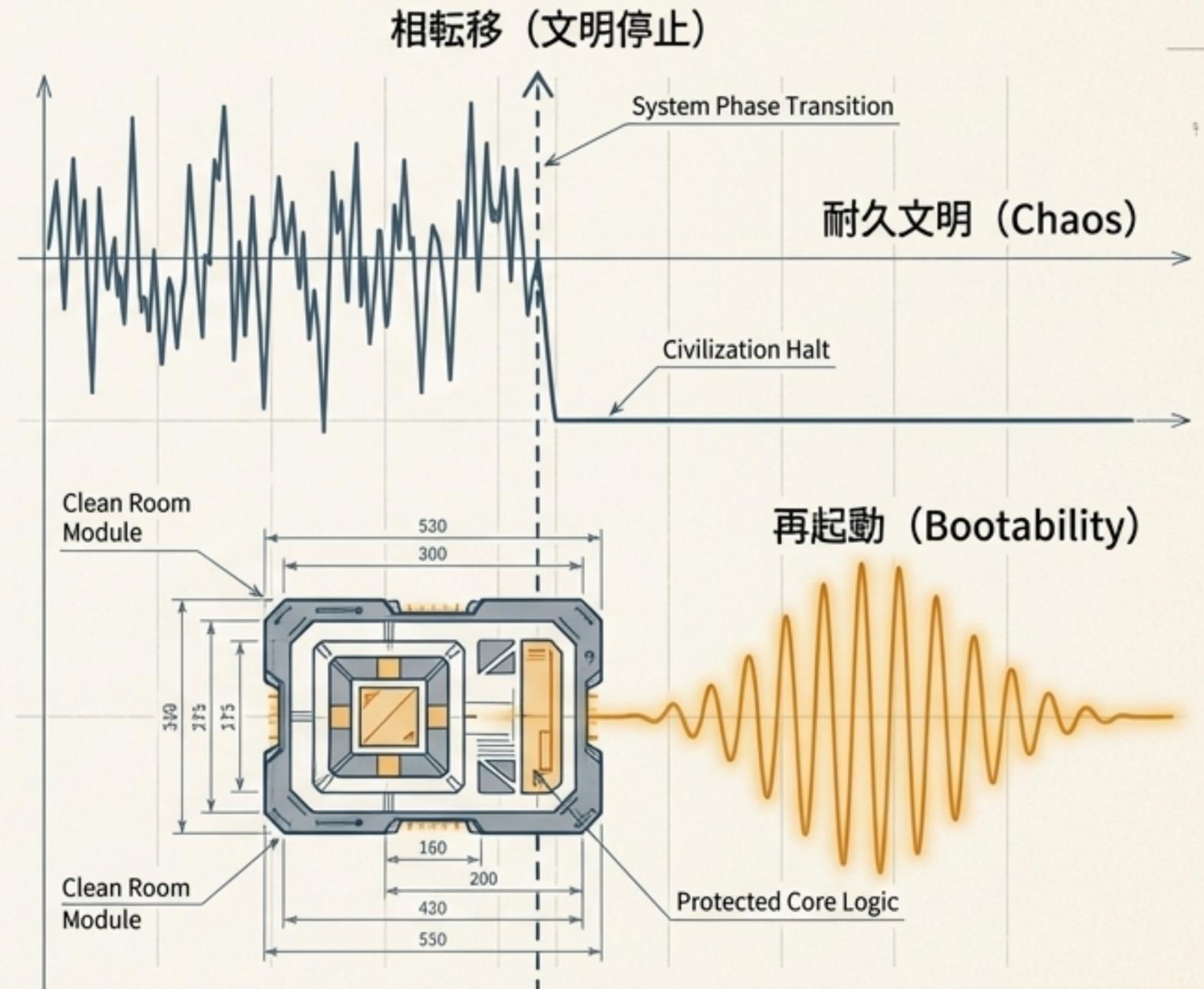
これは道徳的な「純潔の聖域」ではない。外部から切断された避難所でもない。耐久文明の内部に設置され、外部と接続しながらも腐敗構造によって内部核が変質しないよう設計された「論理的隔離室（保存工学）」である。



# 目的は「純潔」ではなく「再起動可能性 (Bootability)」

耐久文明の相転移（崩壊）において、全部を救うことはできない。クリーンルームが守るのは、文明が停止した後に再び立ち上がるための初期条件である。

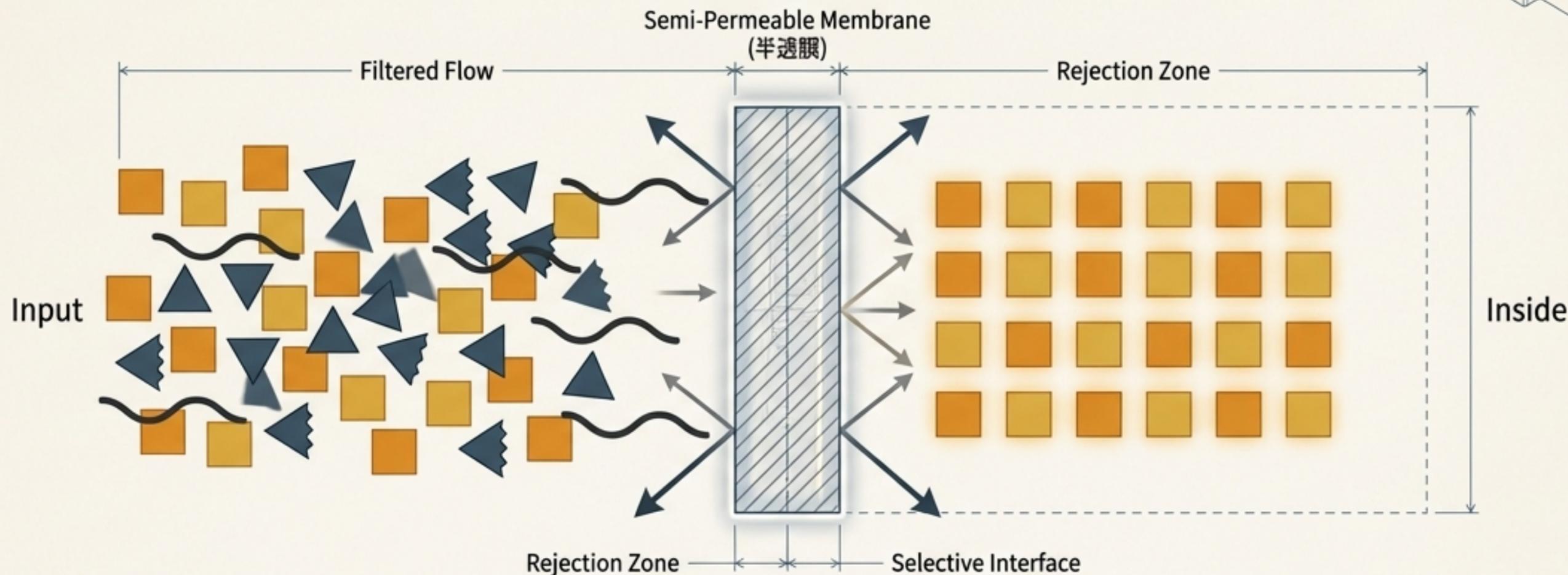
汚染とは「汚れ」ではなく「変質」である。クリーンルームは、再起動の座標が別の運転論理に乗っ取られることを防ぐ。



\* Footnotes et al. 2022 (0/3.83393)  
\*\* Footnotes aninated and hs existmese illoixropanets.  
\*\* Protected lparabir if Prototooted Core project.

REGISTOR	Clean Room Mo.
PROJECT	Wriikeet Idl
PROJECTOR	FOUD'SRS

# 境界の性質：「半透膜」としてのインターフェース



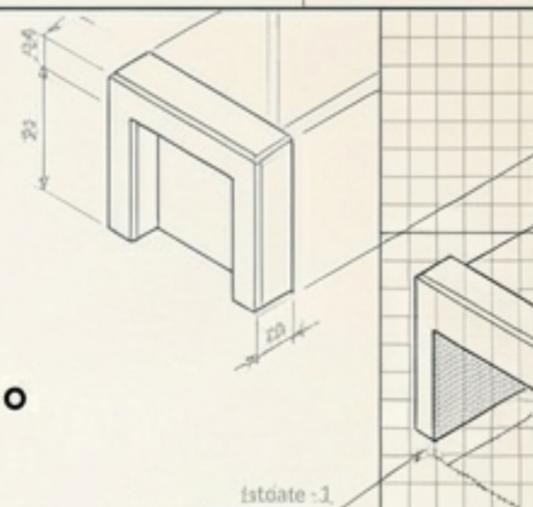
<p>Noto Serif JP</p> <p>[通すもの] →</p>	<p>Noto Serif JP</p> <p>[弾くもの] ↗</p>
<p>Noto Sans JP</p> <p>資金、インフラ、安全といった「物理的資源」</p>	<p>Noto Sans JP</p> <p>価値観、判断軸、外部の評価関数、同調圧力</p>

無接続では死蔵され、無防備な接続では腐る。クリーンルームは「壁」ではなく、必要な資源だけを濾過し、意味や責任の変質を弾く「半透膜」として機能する。



# 保存すべき4つの核：再起動条件の最小単位

保存対象は単なる「情報」ではない。これら4つは独立した資産ではなく、互いを支え合う「責任の束」である。一つでも欠ければ、文明の種火は遺物へと変わる。

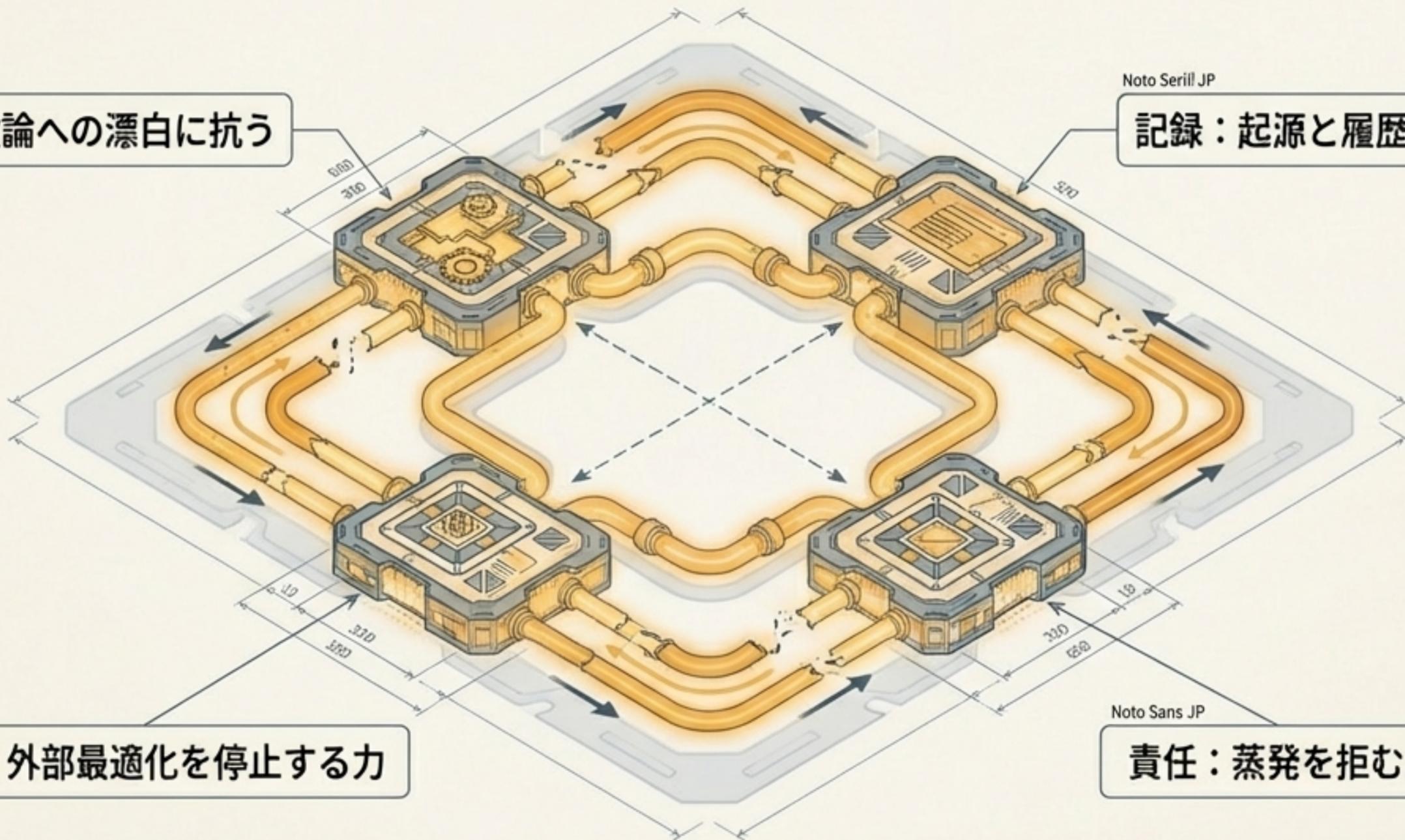


Noto Serif JP

思想：一般論への漂白に抗う

Noto Serif JP

記録：起源と履歴を固定する

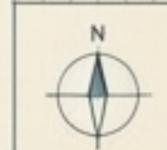
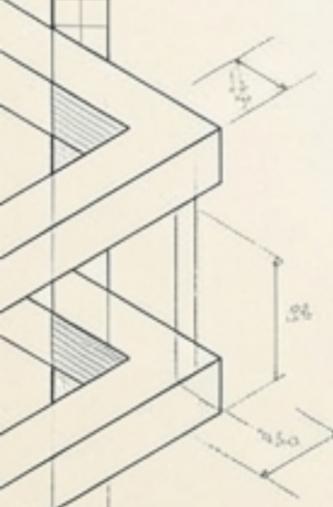


Noto Serif JP

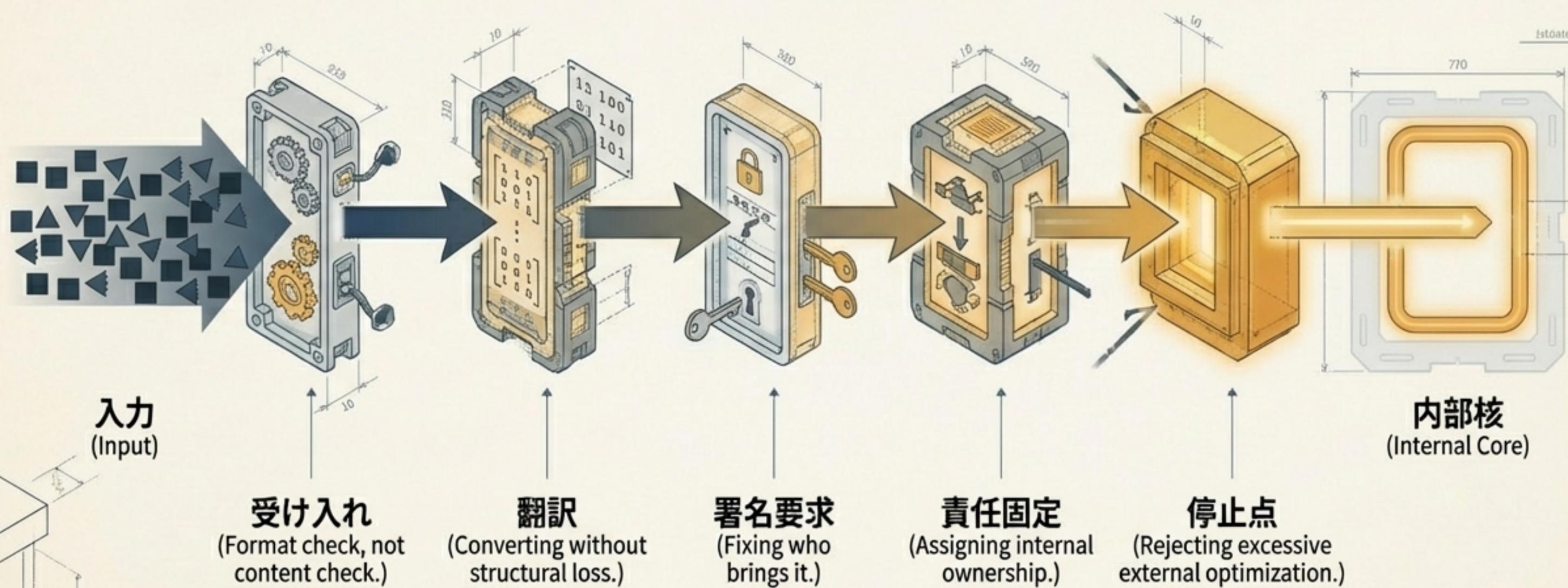
判断：外部最適化を停止する力

Noto Sans JP

責任：蒸発を拒む主体性

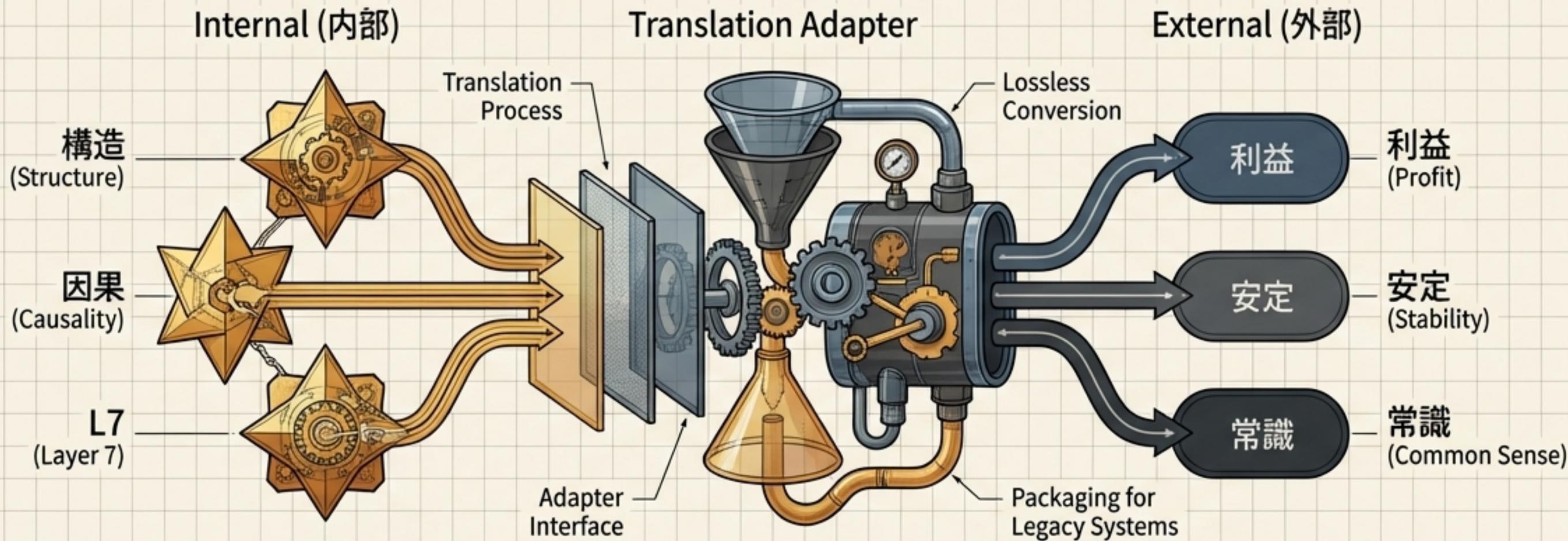


# 境界設計 (Boundary Design) : 制御された接続プロトコル



境界とは地理的線引きではなく、運転条件の体系である。外部からの圧力を感情 (敵味方) ではなく、「内部核を変質させるか否か」という構造的基準で処理する。

# 非対称翻訳 (Asymmetric Translation) の作法



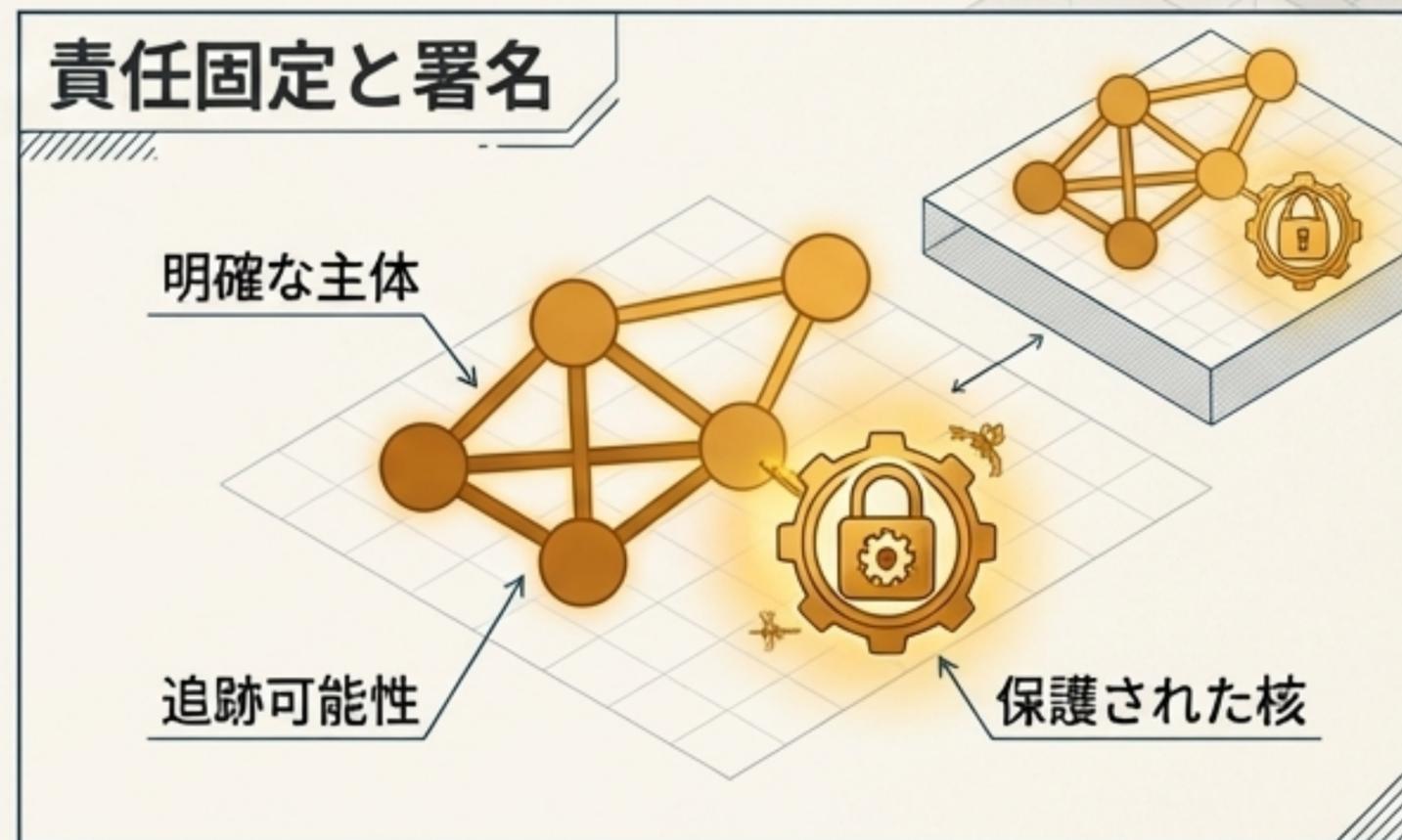
内部の高純度な思想 (Core) をそのまま外部 (Legacy) へ投げれば拒絶される。  
思想の構造的損失を最小化しつつ、外部が理解できる語彙 (利益・効率) へ「包装」して出力する技術。



**翻訳は妥協ではない。核を壊さずに外部資源を引くための「防護手続き」である。**

# 小規模判断系：責任蒸発に抗う防衛陣地

耐久文明の末期における致命傷は「誤った決定」ではなく「決定主体の消失」である。

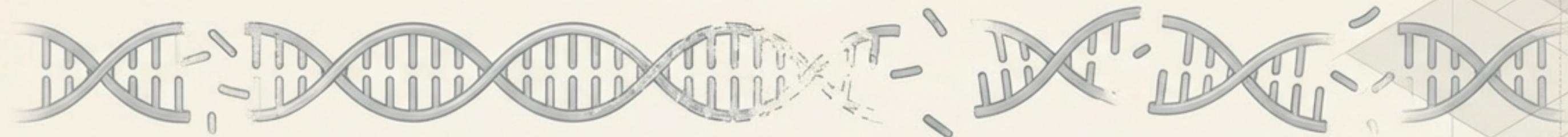


- 合議や空気に判断を委ねない
- 意思決定主体の明示と優先順位の設定
- 小規模とは「人数の少なさ」ではなく「責任追跡可能性が維持できる上限」を指す。



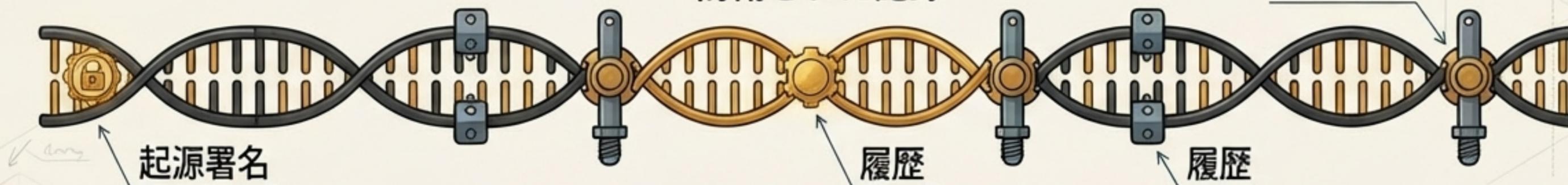
# 記録防衛：署名・履歴・参照可能性の死守

剥離した記録（情報の残骸）



防衛された記録

起源署名



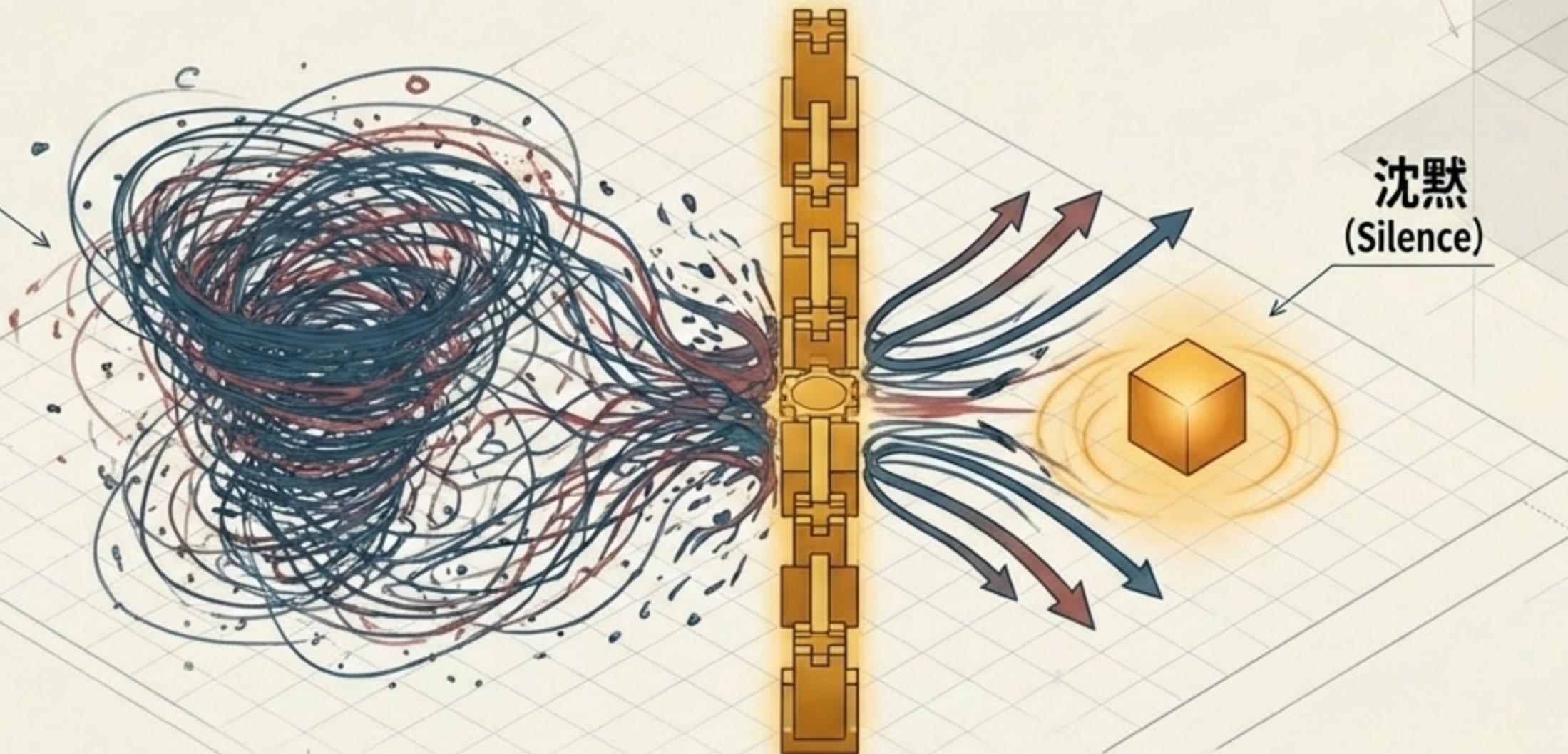
誰が書き、いつ生成され、何に依拠したか。  
起源署名が剥離した記録は、単なる情報の残骸にすぎない。

記録防衛とは、保存データを守るのではなく、  
再起動時に「責任を復元できる痕跡体系」を守ることである。



# 沈黙と非加担：共圏燃烧からの距離

共圏燃烧  
(Combustion Block)



沈黙  
(Silence)

耐久文明特有の「敵味方の二分法」  
や「即時の共鳴要求」に対する  
最大の防御は、沈黙である。

ここでの沈黙は「何もしないこと」ではない。  
再起動エネルギーを無駄な炎上(神話的正義の消費)に接続させず、  
判断資源を散逸から守るための「能動的な運転技術」である。



# 監査マトリクス：それは「遺物」か、それとも「種火」か

クリーンルームは「残っていること」ではなく「再起動できること (Bootability)」によって評価される。

	遺物 (Relic)	種火 (Seed Fire)
情報量	大規模だが断片化	縮小されているが完全
起源署名	消失・曖昧化	固定されている
責任追跡	追跡不能 (責任蒸発)	痕跡体系が維持されている
翻訳可能性	旧文脈に依存・翻訳不可	次相へ構造的翻訳が可能
状態	意味や価値はあるが、運転・再展開できない死蔵データ	適切な条件下で再び立ち上がる「運転条件の核」

# 限界と負荷：クリーンルーム保持者の実務的成本

クリーンルームは完全無汚染の楽園ではない。保持者は、外部の最適化圧（速さ・効率）に逆行するため、必然的に以下の負荷を背負う。



## OPERATIONAL COSTS CHECKLIST

- 孤立（運転原理の差異による摩擦）
- 遅さと非効率（履歴と署名を要求するコスト）
- 短期利益の放棄（汚染された資源の拒絶）
- 倫理的負荷（何を救い、何を見送るかの選別）

# シンセシス：再起動への移行タイムライン



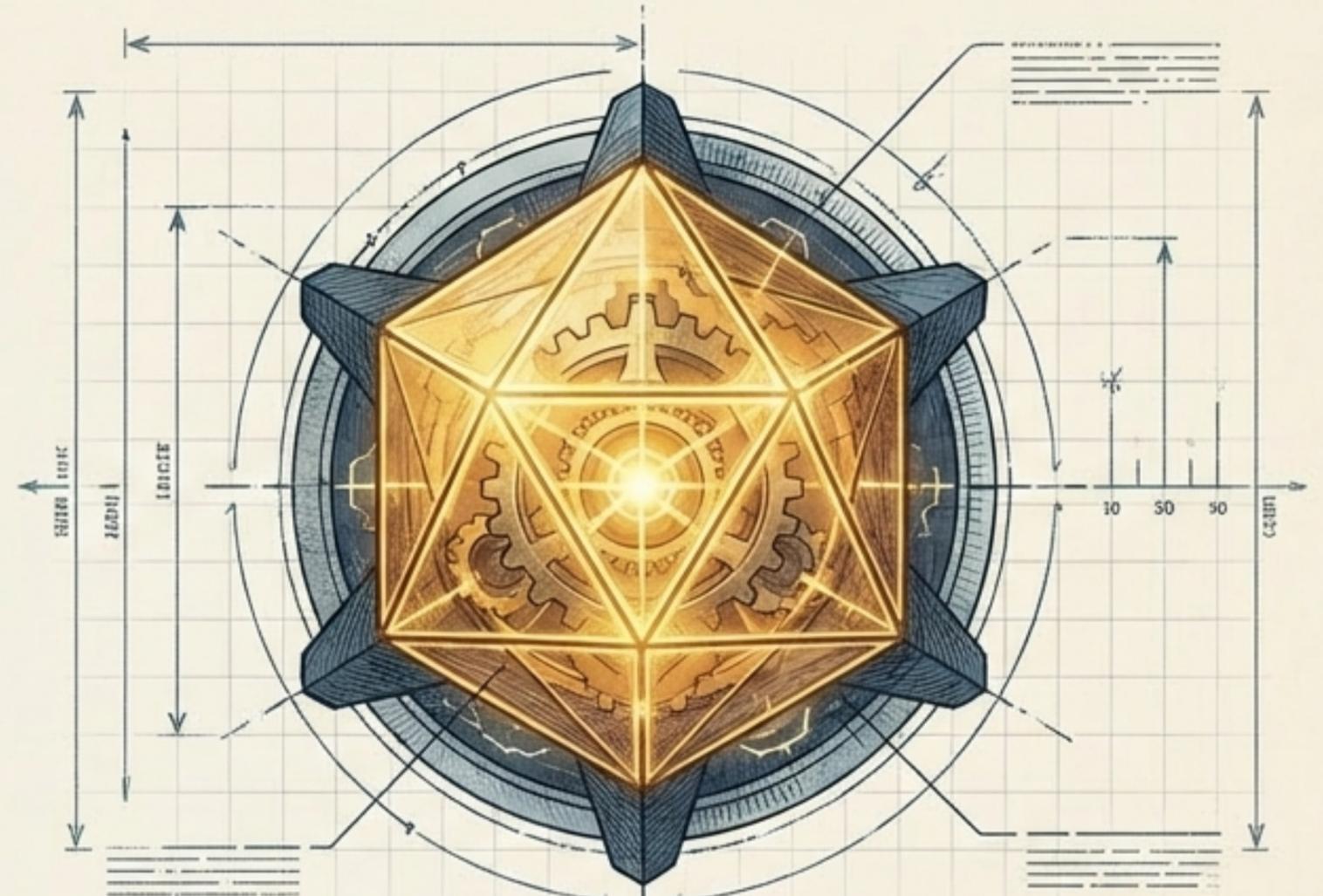
耐久文明の延命は目的ではない。クリーンルームという「保存工学」を通じて次相の初期条件を渡渡し、相轉移（崩壊）を越えて新しい運転原理を再展開するための架け橋である。



# 未来責任の引受け：種火を次代へ手渡すために

未来は、延命の先に自動的に到来することのではない。

未来は、汚染の中でなお種火を守る構造を設計し、その責任を消さず、記録を漂白させず、判断を蒸発させない者たちによってのみ持ち越される。



NCL-ID: NCL-α-20260316-0c31d1

「全部を救うことができない局面において、何をどう残すかを定めることは、悲観ではない。それは未来責任の引き受けである。」